

公共施設から、 これからの光市を考える

公共施設最適化シミュレーション会議

- 動かして、つくる、まちのデザイン -



開催日時

令和8年8月5日（水）
9:30-12:00

会場

光市立浅江中学校
学びの創造 1

参加人数

17名

なぜ、今、公共施設について考えるのでしょうか

光市では、人口減少や財政規模の縮小が見込まれる一方、公共施設の老朽化が進んでいます。市が保有する公共施設123施設のうち、耐用年数を超過した施設は67施設、約54%です。

123

公共施設

67

耐用年数超過

約54%

全体に占める割合

公共施設マネジメントは、単に施設を減らす取組ではありません。機能に着目し、集約化・複合化・再配置を通じて、これからのまちの形を考える取組です。



ファシリテーター

和泉 宏 さん

一般社団法人motibase代表理事
教育コーディネーター

光市浅江出身。山口県内を中心に、若者の探究活動や地域づくり、人と地域をつなぐ対話の場づくりに取り組んでいます。

Day1のテーマ

光市と周辺地域の「今」を、施設・機能・市民の感覚から捉える

2日間を通じて考えること

これからの光市で、どのような暮らしや過ごし方を実現したいか。
そのために、どのような機能や場所が必要か。

Day1で「現在地と可能性」を捉え、Day2で「10年後の暮らし」と「未来の光市マップ」へつなげます。

施設を「建物」だけでなく、機能と過ごし方から考える

公共施設を「残す・なくす」という視点から考えるのではなく、市民の暮らしを支える機能と、そこで生まれている過ごし方・価値に注目しました。

1 建物・施設

図書館、学校、コミュニティセンターなど、現在ある施設や場所

2 機能

学ぶ、集う、相談する、休む、活動するなど、そこでできること

3 過ごし方・価値

誰が、誰と、どのように過ごし、どのような気持ちになるか

Day1の流れ

01 現在地を知る

公共施設の状況と、まちづくりの考え方を確認

02 機能を見つける

施設で「何ができるか」を機能カードで表現

03 経験を重ねる

大切なこと、困りごと、希望を付箋に記入

04 周辺地域を見る

周辺市町との比較から光市の特徴と可能性を考察

05 現在地をまとめる

大切にしたい価値と可能性の種を整理



地図の上に、施設・機能・市民の声を重ねました

公共施設を施設名入りの消しゴムで表し、その周りに「そこで何ができるか」を示す機能カードと、実際の経験や感じたことを書いた付箋を置きました。正式な用途だけでなく、実際の使われ方や、活用の仕方によっては可能性を秘めている機能・価値にも目を向けました。



付箋に書いた4つの視点

大切にしたい

もっと生かせそう

困りごと・使いにくさ

こうなったら利用したい

Day1は、市民の皆さんのリアルな声を明らかにし、
光市の強みや課題、これからの可能性を見つける時間でした。

施設や場所について、約110件の声が集まりました

4グループから寄せられた意見の一部を紹介します（掲載している声は、当日の参加者から出された意見であり、市全体の合意や決定事項ではありません）

大切にしたい

「光市の自然(ビーチ、松林、室積、山間部)」

「イベントがなくても、海があるだけで楽しめる」

「夕方、老若男女が思い思いに過ごしている」

自然、海辺、地域の交流を大切にしたい

もっと生かせそう

「駅を利用する学生の居場所・交流・学びの場があったらよい」「全世代が1日過ごせる場所に」

「(旧浅江中)空き教室を貸会議室などに開放できないか」

「(虹ヶ浜～駅)民間が挑戦しやすい基盤づくり」

既存施設の使い方や機能の組み合わせ

困りごと・使いにくさ

「車がないと利用しにくい」「駐車場不足」

「施設が古く、真夏の練習環境が厳しい」

「シャワー施設が少ない。トイレが古い」

交通手段、老朽化、情報の分かりにくさ

こうなったら利用したい

「駅前にカフェがあれば待ち時間を過ごせる」

「マルシェor普段使いができれば行きたい」

「(図書館)カフェや休憩スペースが併設されていたら、滞在時間も長くなりそう」

若者の居場所、飲食・休憩、子育てのしやすさ

多く語られたキーワード

交通・アクセス / 虹ヶ浜・海・自然 / 子ども・子育て
飲食・休憩 / 学生・若者の居場所 / 既存施設の活用・組み合わせ

光市の現在地を、未来を考える材料へ

Day1の声を横断すると、公共施設だけでは完結しない、暮らしとまちづくりのテーマが見えてきました。

海・自然

光市らしい環境を日常の過ごし方につなげる

子育て

子ども連れで長く過ごせる環境

若者

放課後に過ごし、交流や挑戦ができる場所

交通

車があってもなくても
利用しやすいアクセス
(場所・交通手段・駐車エリア)

過ごし方の組み合わせ

飲食・休憩・交流などの機能を
組み合わせる(施設+エリア)

光市ならではの差別化

周辺市町にある機能を踏まえて
光市ならではの尖りをつくる

施設の整理を、まちづくりにつなげる

光市は、光駅周辺～島田市と市役所周辺を、広域的なサービスを提供する「都市拠点」として位置付けています。各地域・生活拠点では、日常生活や地域活動を支える機能を維持する考えです。拠点の役割に応じて機能を整理し、似た機能をまとめたり、相性のよい機能を組み合わせたりすることを検討しています。

「コンパクト・プラス・ネットワーク」：生活に必要な機能を一定の拠点に集め、公共交通で結び、暮らしやすく持続可能なまちを目指す考え方。

拠点の役割に応じて、整理する



Day2では「未来の光市マップ」へ

Day1で見た強み・課題・可能性を引き継ぎ、10年後に実現したい暮らしの場面と必要な機能を考えます。さらに、どこで実現するか／何と組み合わせるか／どのような市民の過ごし方が生まれるかを地図上に表現します。

今後の流れ

令和8年度

市民ワークショップ

令和9年度

都市施設マネジメント計画の
策定

令和9年度以降

個別施設の検討・適正配置等の
実施